

札幌国際大学における 園芸療法士養成の実態

～札幌から広がる未来を育てる学び～

札幌国際大学 人文学部心理学科 准教授 吉崎俊一郎

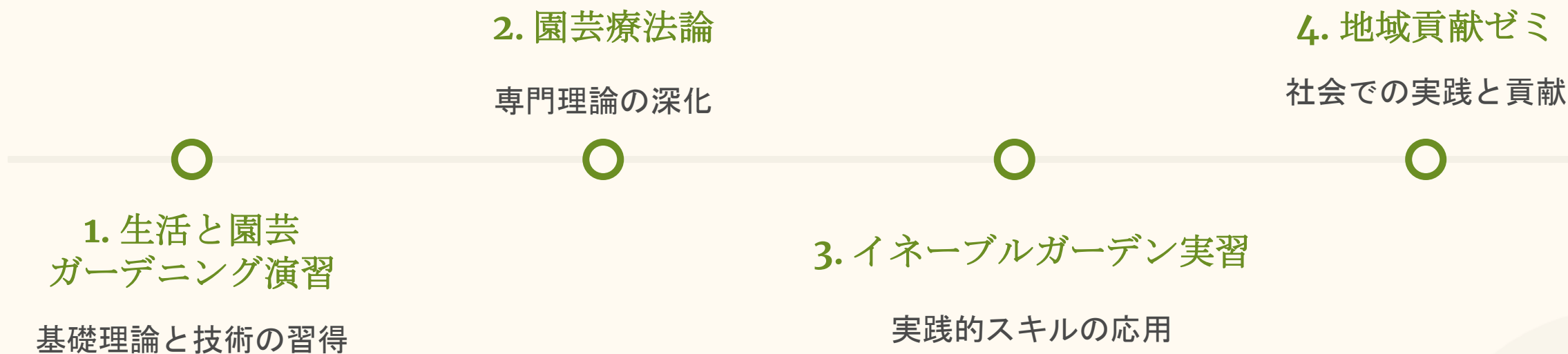


本学の取り組みと目的

本学の園芸療法士養成プログラムは、全国大学実務教育協会の園芸療法士資格を取り入れており、理論から実践、そして地域貢献までを網羅する多角的なカリキュラムを特としています。

2002年度から本学では開始され昨年度までに400名を超える資格取得者が誕生しております。本発表では、その独自の教育体系と実績、地域社会への貢献について紹介します。

カリキュラムの流れ



授業紹介：理論の構築

生活と園芸・ガーデニング演習

-  園芸の基礎知識と技術を学びます。
-  植物の育成管理を通じて、生活における園芸の役割を理解します。
-  種から育て仲間と収穫まで通じて、充足感、愛着、コミュニケーション能力が高まります。

園芸療法論

-  園芸療法の専門的な理論、歴史、対象者別のアプローチを学びます。
-  心身への効果に関する科学的根拠を深く掘り下げます。

授業紹介：実践への展開

イネーブルガーデン実習

-  学内のイネーブルガーデンを活用し、多様な人々が利用できる庭園の管理・運用を実践的に学びます。
-  高齢者や特別支援学級の学生と実習を通じて、園芸療法の実践を学びます。

地域貢献ゼミ（3・4年次）

-  大学で培った知識と技術を地域社会で活かす実践活動。
-  地域の課題解決に向けたプロジェクトに産学官民の連携を目指し取り組みます。

全国大学実務教育協会 園芸療法士資格 履修科目

園芸療法士

心・身体・園芸の相互関係、園芸にもちいる植物、土壌づくり～繁殖～収穫のしかた、園芸機材の取り扱いなど、リハビリテーションとしての園芸に関する知識・技術を修得し、障がい者や高齢者の心身の発達・回復をサポートできる人材を養成します。次に示す必修科目および選択科目を合わせて20単位以上を修得した者に付与されます。

※子ども心理専攻の学生で保育士資格取得見込みの場合は、必修科目8単位のための修得で付与されます。ただし、認定証の申請手続きは4年次3月期となります。

	科目名	単位数	開講学科等	年次	備考	履修方法
領域1	生活と園芸	2	心理学科	1		必修
	社会福祉論	2	心理学科	1		
	認知行動療法	2	心理学科(臨床)	2		
	対人関係論	2	心理学科(臨床)	2		
	精神疾患とその治療	2	心理学科(臨床)	2		
	心理学概論	2	心理学科	1	心理学科必修科目	
	臨床心理学概論	2	心理学科(臨床)	1	心理学科(臨床)必修科目	
	障害者・障害児心理学	2	心理学科	2		
	健康・医療心理学	2	心理学科	3		
	知覚・認知心理学	2	心理学科	2		
	色彩心理学	2	心理学科	2		
	福祉心理学	2	心理学科	3		
領域2	アロマセラピー	2	心理学科(臨床)	1		
	園芸療法論	2	心理学科(臨床)	1		必修
	ガーデニング演習	2	心理学科	1		必修
	フラワーアレンジメント	2	心理学科(臨床)	1		
領域3	イネーブルガーデン実習	2	心理学科(臨床)	2		必修

領域1、2、3から20単位以上

学びの場&憩いの場：イネーブルガーデン

本学のガーデンは、学生たちの実習の場であると同時に、地域住民の憩いの場ともなっています。

特にイネーブルガーデンは、園芸療法士資格取得の為に中核をなす施設であり、車椅子の方でも作業しやすいレイズドベッド（立ち上げ花壇）や、安全な動線を確保しています。



ガーデンコンサートの様子



授業の様子



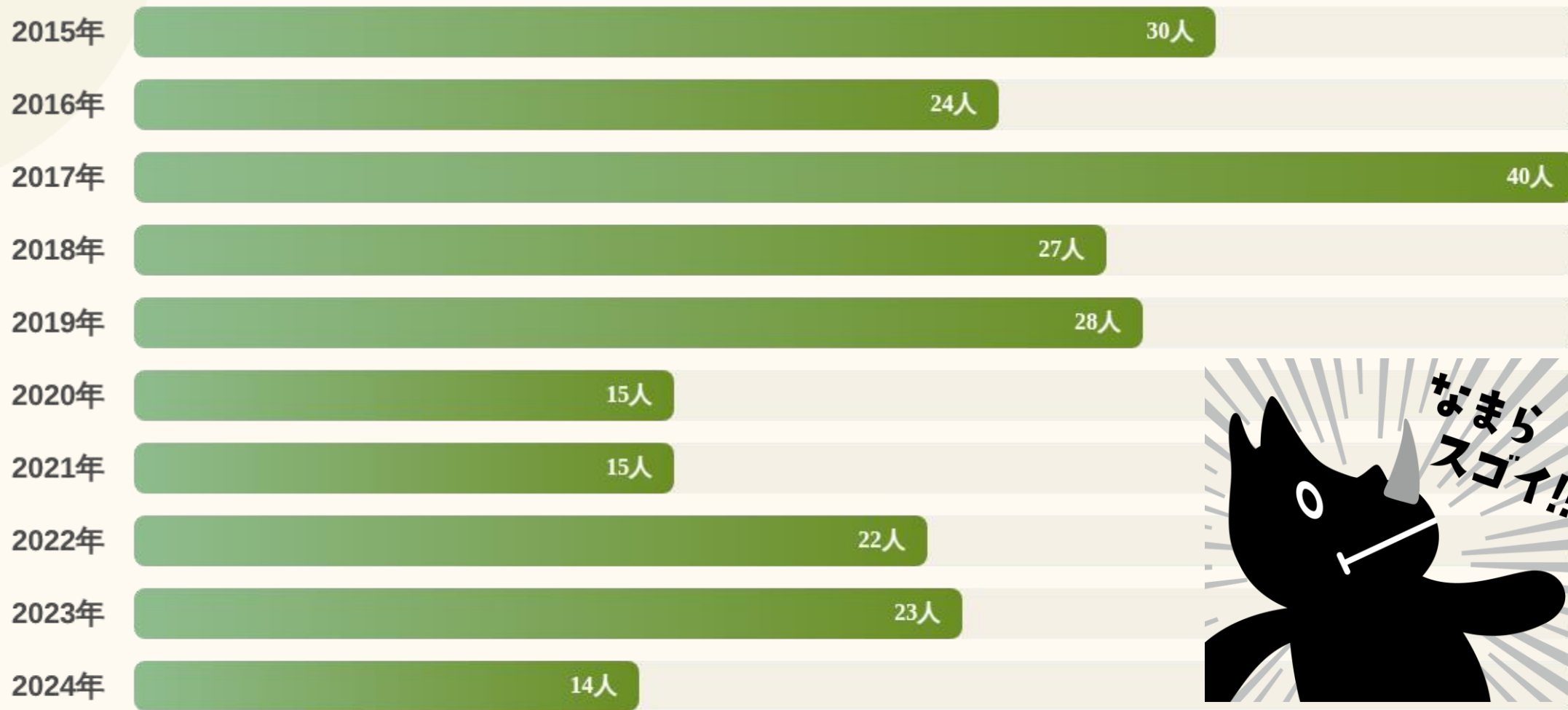
ガーデニング演習・生活と園芸



イネーブルガーデン実習



成果：資格取得者数の推移（2015-2024年）



資格制度開始（2002年）以来、取得者数は累計**441名**となりました。教育プログラムの成果が着実に表れています。

地域貢献ゼミの取り組み

3・4年生のゼミでは、清田区社会福祉協議会からの「地域の困りごと」の依頼を受け、2年前からゼミ生がサポートしてきました。1年目を終え、継続的な活動依頼の要望に答えるため今年度から「グリーンサポーターズ」を結成し、社協とGSの2段階構えで取り組みました。

学生の活動の様子や札幌市のまちキャン補助金の申請の様子などをご覧ください。



動画で見る園芸療法



園芸療法士資格 紹介動画

札幌国際大学の園芸療法士資格を紹介する動画です。

本学での学びの様子や、資格の魅力について詳しく解説しています。左のQRコードからぜひご覧ください

。

今後の展開



カリキュラムの深化

地域のニーズに応じた新しい実習プログラムを開発します。



地域連携の拡大

連携先施設や町内会を増やし、学生の実践の場をさらに多様化させます。また、他学との連携にも注力します。

学内ベンチャーへ

ゼミ生を中心に地域に根ざした学内ベンチャー創設にむけて動きだします。